

「勉強をしなければいけないのは何故か」

北中学校 3年 山田 菜弥

私は勉強は大切だと思います。しかし、自分でも「なぜ勉強しなければいけないのか」と考えてもわかりません。

今、学習していて、将来本当に必要なのかと思うものもあります。自分の中では将来あまり役立たないと思うからです。国語や英語は絶対に必要だと思います。国語では、語彙力があつたほうが将来仕事など幅広く役立ちそうだからです。英語を話せたら言葉の壁を超え、世界の人達と関わって、自分の可能性が今よりもっと広がると思うからです。このように絶対に必要だと思う教科もあります。反対に、将来あまり使わなさそうな教科は1つや2つ誰にとってもあると私は思います。周りの大人に「なぜ勉強しなければいけないのか」と聞いてもあまり自分が共感できる答えや納得がいく答えが返ってきませんでした。ということは、大人でも「勉強する理由」をはっきり理解している人は多くない事が分かりました。なので、自分でその答えに辿り着く為にいろいろな事を考えてみたりしました。将来の自分がどうなりたいかなども考えてみたりしましたが、やはりすぐに答えが出るものではないのですごく悩みました。その時、ある1冊の本を読み、自分の中でこれが勉強する理由なのかもしれないと納得した気がしました。太宰治の「正義と微笑」という本に書かれていた「勉強というのは、いいものだ。代数や幾何学の勉強が、学校を卒業してしまえば、もう何の役にも立たないものだと思っている人もいるようだが、大間違いだ。植物でも、動物でも、物理でも科学でも、時間のゆるす限り勉強しておかなければならん。日常の生活に直接役に立たないような勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。何も自分の知識を誇る必要はない。勉強して、それから、けろりと忘れていいんだ。覚えるということが大事なのではなくて、大事なのはカルチベートされることなんだ。」という部分を読んだとき感銘を受けました。「学校を卒業してしまえば、もう何の役にも立たないものだと思っている人もいる」と書かれていたように自分自身も正直そう思っていました。が、「正義と微笑」という本を読んでみて、そうではなかったと思いました。どんな事でも、役に立たないと思っっているものほど将来の自分の人格を完成させるものだという言葉が自分の胸に響きました。この部分で言う「カルチベート」とは「耕された人間になれ」という事です。自分の中で「勉強する理由」はその教科が必要なのか必要ではないのかではなく、そう思いながらも良いから必死に努力して身につける過程が大切なのではないのかと思いました。これから自分が大人になって、何が必要で何を周りから必要とされるか分かりませんが、何を必要とされても期待に応えられるようになりたいと思います。私が今この作文で主張したい事は今は全力で勉強したほうが良いということです。今は、「なぜ勉強をしなければいけないのか」と思う事もあり、勉強せず遊びたいと思う気持ちもありますが、今は遊びよりも勉強を優先し、将来大人になってから全力で遊べば良いだろうと思いました。なので、今は必死に勉強することが大切だと思います。この作文を通して、「なぜ勉強しなければいけないのか」という事の原因が少しわかった気がします。今年は自分が受験生なので目標に向けて頑張っていきたいと思っています。